

江の川水系流域治水プロジェクト2.0 に係る各機関の取組状況

流域治水プロジェクト取組内容紹介資料について

- 流域治水プロジェクトの取組内容の中から、各機関の主な取組について、実施箇所や実施状況等を取りまとめたものです。
- 「流域治水」の取組の分類ごとに、タイトルの色を下記の通り分類しています。

タイトルの色分け(流域治水の取組)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

「雨水を貯める」、「洪水を流す」及び「氾濫水を減らす」対策を実施し、洪水を安全に流し、氾濫を発生しにくくするための取組です。

被害対象を減少させるための対策

「災害リスクがより低い区域への誘導・住まい方の工夫」、「浸水範囲の限定」に係る対策を実施し、浸水の拡大を防ぎ、被害を最小化するための取組です。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

「避難」や「経済被害軽減」の対策を実施し、避難に係る情報の充実、経済被害の最小化、被災後しても早期に復旧・復興するための取組です。

グリーンインフラの取組

「治水対策における多自然かわづくり」、「魅力ある水辺空間・賑わい創出」を実施し、自然環境が有する多様な機能を活用するための取組です。

- 平成30年7月豪雨により甚大な内水被害を受けた畠敷・願万地地区の被害軽減をめざした内水対策の一つとして、雨水貯留施設を整備。
- 約28,000m³の雨水貯留により、内水による浸水深の低下、下流への流出抑制対策にも寄与することが期待される。



事業概要

事業箇所: 三次市三次町願万地

貯留容量: 27,900m³

(※2箇所合計)

■ 貯留施設①

貯留量 $V=7,600\text{m}^3$

計画貯留深 $h=1.0\text{m}$

■ 貯留施設②

貯留量 $V=20,300\text{m}^3$

計画貯留深 $h=2.5\text{m}$

■ 財源

緊急自然災害防止対策事業債



- 内水浸水被害の解消に向け、雨水貯留浸透施設を整備。
- 瀬戸、常友、国司地区へ計約79,000m³の雨水貯留により、内水による浸水深の低下、下流への流出抑制対策にも寄与することが期待される。

事業概要

総貯留容量:約79,000m³

■ 川向調整池(仮称)
貯留量 V=20,000m³

■ 国司調整池(仮称)
貯留量 V=32,000m³



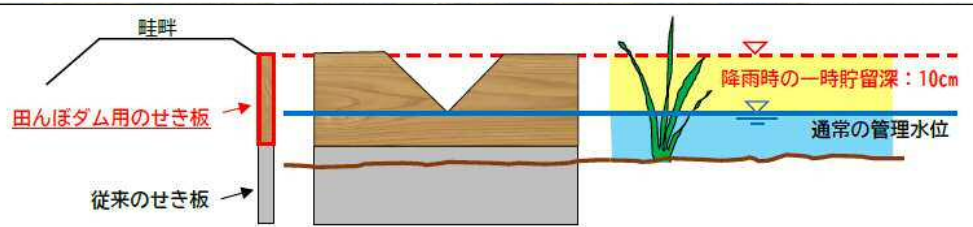
事業概要

■ 瀬戸調整池(仮称)
貯留量 V=27,000m³



- 田んぼの排水口に田んぼダム用のせき板を設置することで、急激な降雨時に田んぼへ一時的に雨水を貯留し、下流の水路や河川の水位上昇を抑える取組を推進

常友地区における田んぼダムの取組



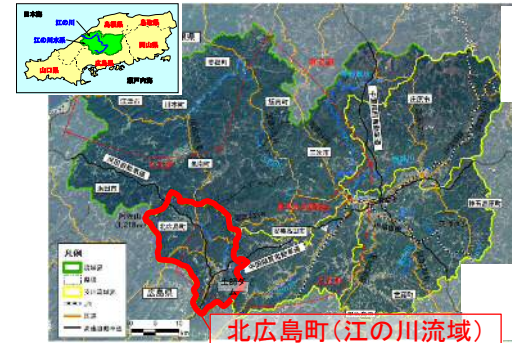
田んぼダムの取組
取組面積: 約20ヘクタール
田んぼの枚数: 約160枚
<10cm貯留した場合の貯留量>
貯水効果: $200,000\text{m}^2 \times 0.10\text{m} = 2\text{万m}^3$



【凡例】

□ : 田んぼダム取組範囲

- 北広島町では、町面積の約80%を山林が占める特徴を活かして『せどやま再生事業』に取り組んでいる。
- この取り組みにより、木材資源の循環や地域経済の活性化に寄与することに加え、森林の整備・保全による水源涵養によって江の川流域の水害の防止、軽減に繋がり、流域全体の治水対策に貢献している。



治水対策への貢献

林家さんが里山の保全に取り組むことで

- ・水源涵養の機能が強化
- ・雨水浸透・保水力が強化
- ・雨水の流出抑制につながる

江の川上流域に位置する北広島町で、森林の整備・保全によって「雨水の流出抑制」が期待されることで、中・下流域の水害の防止、軽減につながる

木材資源の循環

- ・木材を生活に必要なエネルギー資源として活用し(ストーブ用の薪、ボイラー用の原木)、木材の生産～流通を促進



地域経済の活性化

- ・林家さんは、木材を提供し町内のお店で使える引換券(せどやま券)がもらえる
- ・お店側は、せどやま券を現金に交換

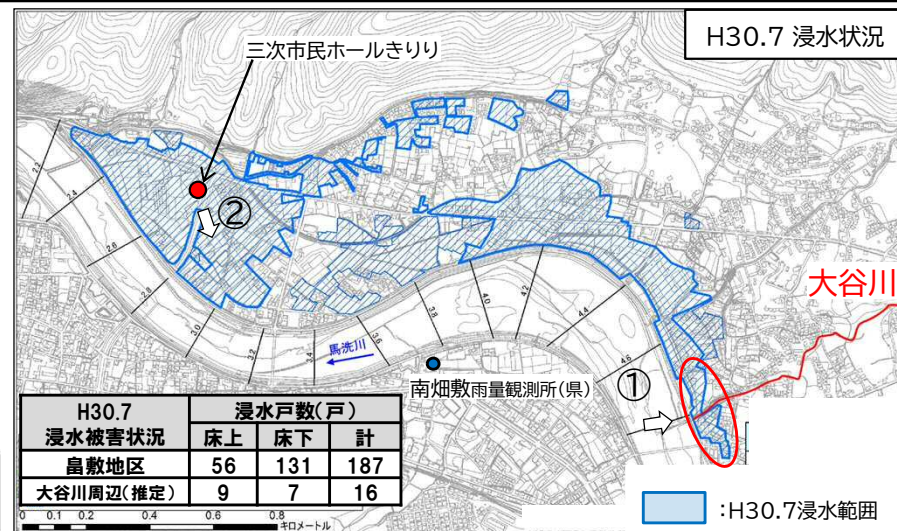
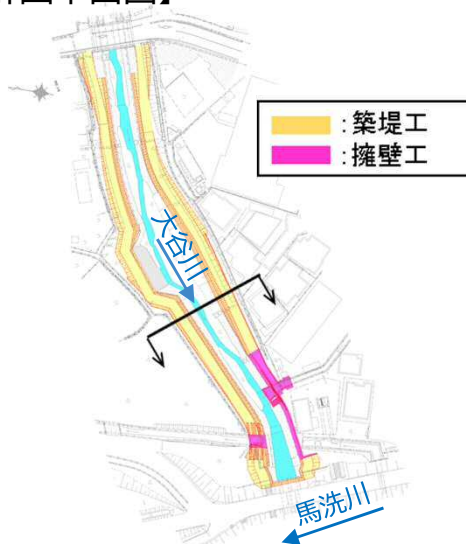
せどやま再生事業の概念イメージ
※背戸山(せどやま)とは、家の裏手にある山をさす用語

- 大谷川では、平成30年7月豪雨時に、合流先の馬洗川の水位が長時間にわたり高い水位であったため、樋門の閉鎖が長くなり、内水による浸水被害が発生した。
- これを受け、平成30年7月豪雨と同様の降雨による家屋の床上浸水を解消し、地域の安全性の向上を図るため、交付金事業により大谷川の築堤工事等を実施し、令和5年度に完成した。

【位置図】



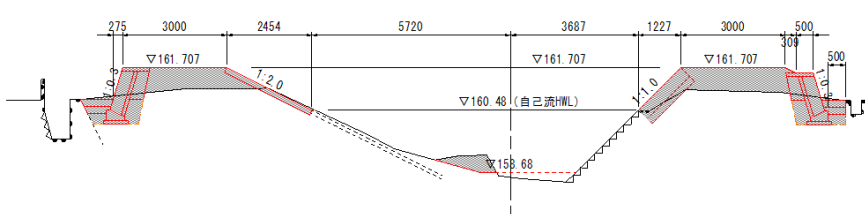
【計画平面図】



【事業内容】

河川名 : 一級河川江の川水系大谷川
 事業内容: 大谷川下流部の堤防改良
 事業期間: R3~R5
 施工箇所: 三次市皇敷町
 工事概要: 工事延長 L=147m
 護岸工 A=428m²
 重力式擁壁工 L=39m

【横断図】



- 北広島町壬生地区、川東地区、川西地区、川戸地区、新庄地区、大朝地区において、河道拡幅などにより必要な河積を確保するなどの河川改修を行い、平成11年6月相当の洪水に対して、家屋浸水被害の防止を図る。

【位置図】



【事業内容】

河川名 : 一級河川江の川水系 江の川
事業内容: 河道拡幅

【全体図】



—: 工事実施済箇所
—: R7年度整備箇所

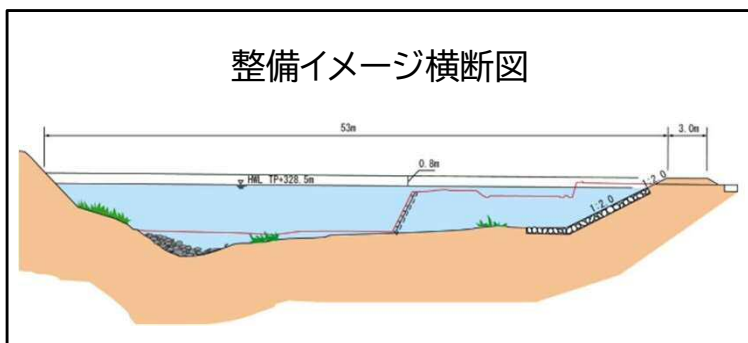
【詳細図】



【詳細図】

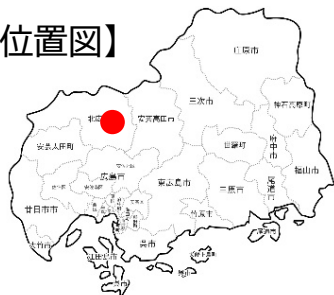


整備イメージ横断図



- 志路原川の地面川合流点から上流3.3km区間において、河道拡幅により必要な河積を確保するなどの河川改修を行い、北広島町有間地区、春木地区、蔵迫地区において、平成11年6月相当の洪水に対して集落地における家屋浸水被害の防止を図る。

【位置図】



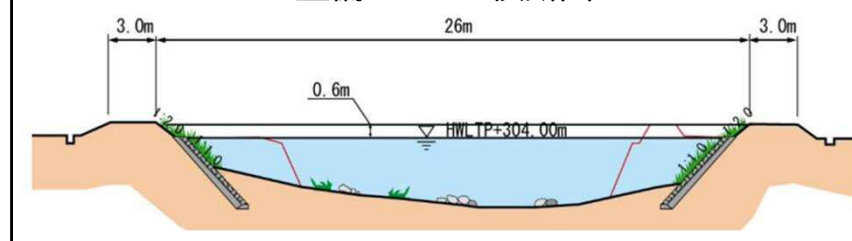
【事業内容】

河川名 : 一級河川江の川水系 志路原川
事業内容: 河道掘削

【写真】



整備イメージ横断面図



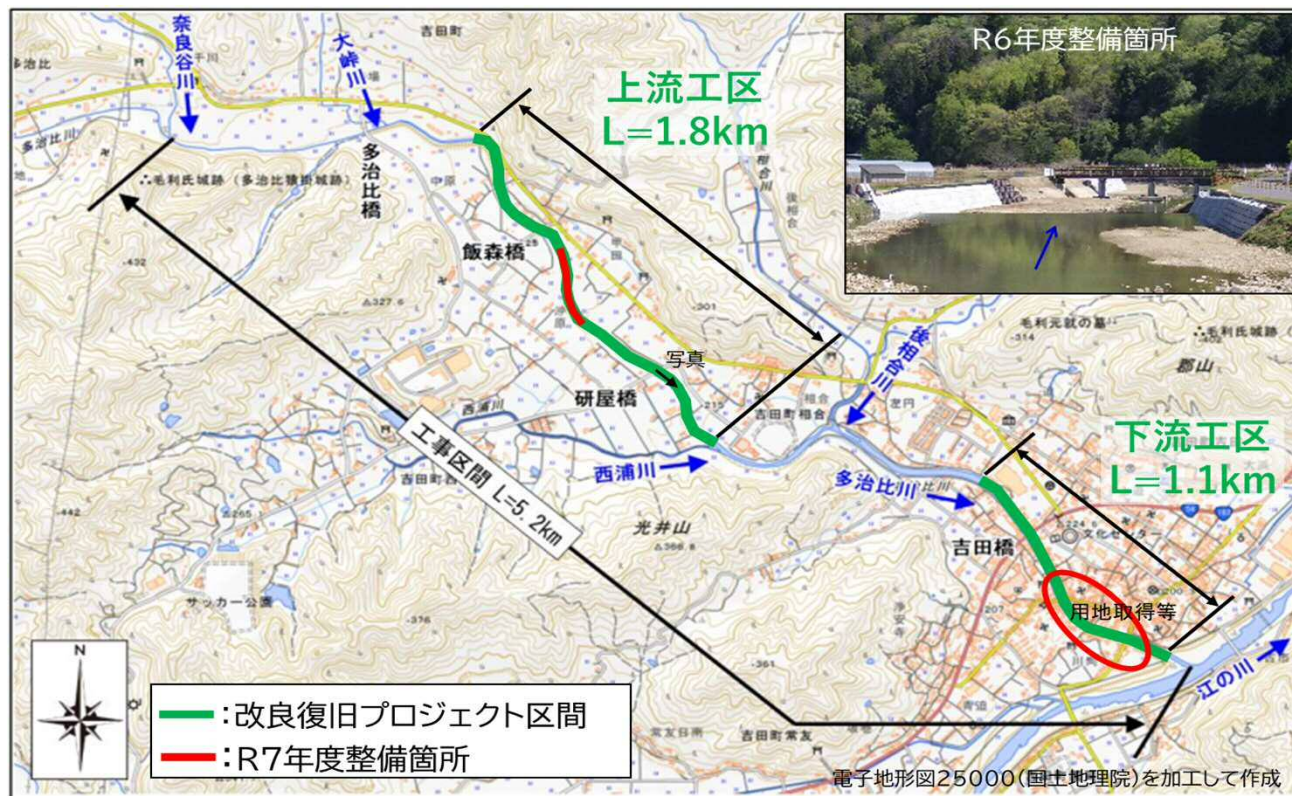
- 多治比川は、令和3年8月洪水(1/70程度)による床上浸水105戸、床下浸水126戸の浸水被害が発生。
- これを踏まえ、令和4年7月に江の川上流域を特定都市河川流域に指定し、令和6年3月に流域水害対策計画を策定、及び整備計画を変更して、河道拡幅や堤防かさ上げを集中的に実施し、令和3年8月洪水規模の降雨に対し解消を目指す。

【位置図】

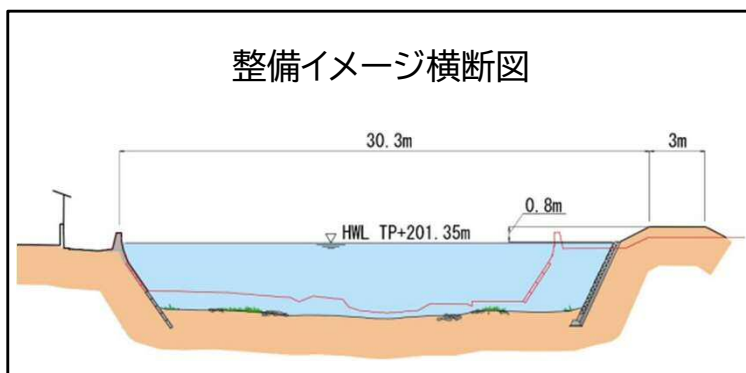


【事業内容】

河川名 : 一級河川江の川水系 多治比川
 事業内容: 築堤29,000m³、掘削26,000m³
 護岸18,000m³、堰改築=4基
 橋梁改築=8橋
 事業期間: R6~R9



整備イメージ横断図



改良復旧プロジェクト区間行程(L=2.9km)

工 種	R4	R5	R6	R7	R8	R9
測量設計						
用地補償						
工事						

- 本県では、人口・資産が集積する洪水予報区間や水位周知区間、豪雨により浸水被害が発生した河川を中心に、令和6年度までに180箇所を設置し、運用を開始している。
- 引き続き、よりきめ細かな情報提供に向け、洪水予報区間・水位周知区間への設置を拡充するとともに、市町と連携した迅速かつ円滑な住民の避難に活用するため、その他河川においても設置していく。

〈運用箇所数〉

水系	令和5年度まで	令和6年度設置数	設置河川
江の川水系	29	9	多治比川(3)※、冠川、志路原川※、神野瀬川、布野川、馬洗川(2)、美波羅川(2)、国兼川、板木川、上下川(2)、岩屋寺谷川、北溝川※、比和川、戸郷川、西城川(5)※、生田川、出原川、大谷川、芋面川、岩倉川、戸張川、湯木川 ※CCTVカメラ含む

- 国土交通省ホームページ「川の防災情報」にて公開しています。
※CCTVカメラにおいては、「広島県河川防災情報システム」にて公開しています。
- 引き続き、県民が河川防災情報を入手しやすい環境の整備を進めます。

【設置例】



【画像公開例】

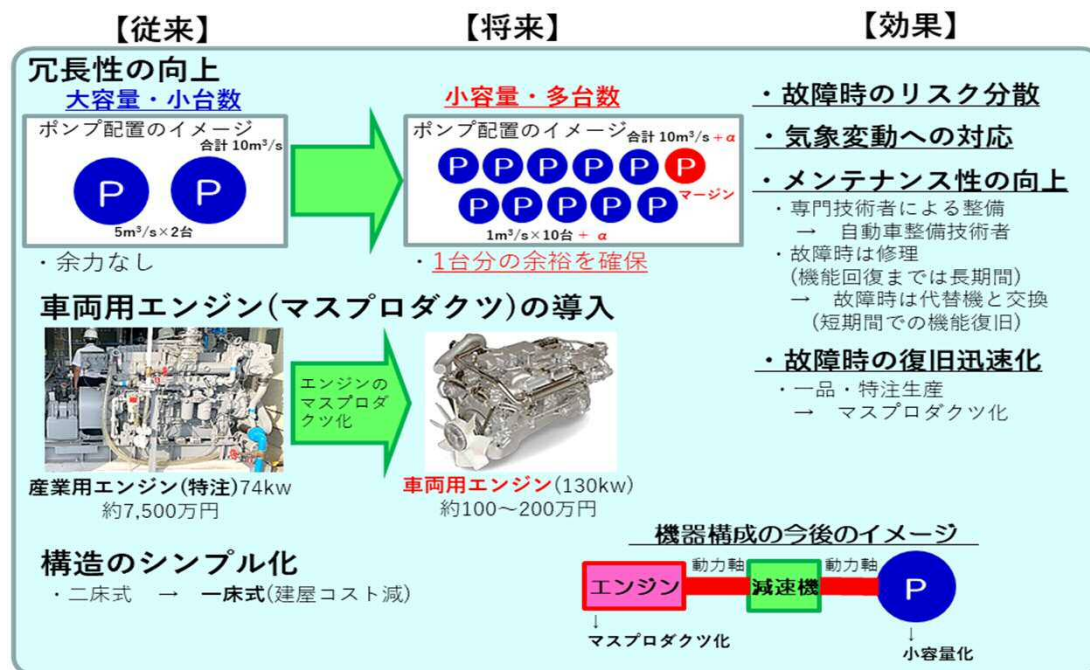


馬洗川(三次市吉舎町)

- コスト縮減、故障時の復旧迅速化、メンテナンス性向上に対応したマスプロダクツ型排水ポンプを開発し、三次市秋町において令和6年3月に設置完成、令和6年11月からの実証試験を開始。令和6年11月1～2日の降雨時に、排水ポンプ設備現場実証試験を行った。



江の川 149.4k+90m (左岸)
秋町中道排水樋門 (三次市秋町地先)

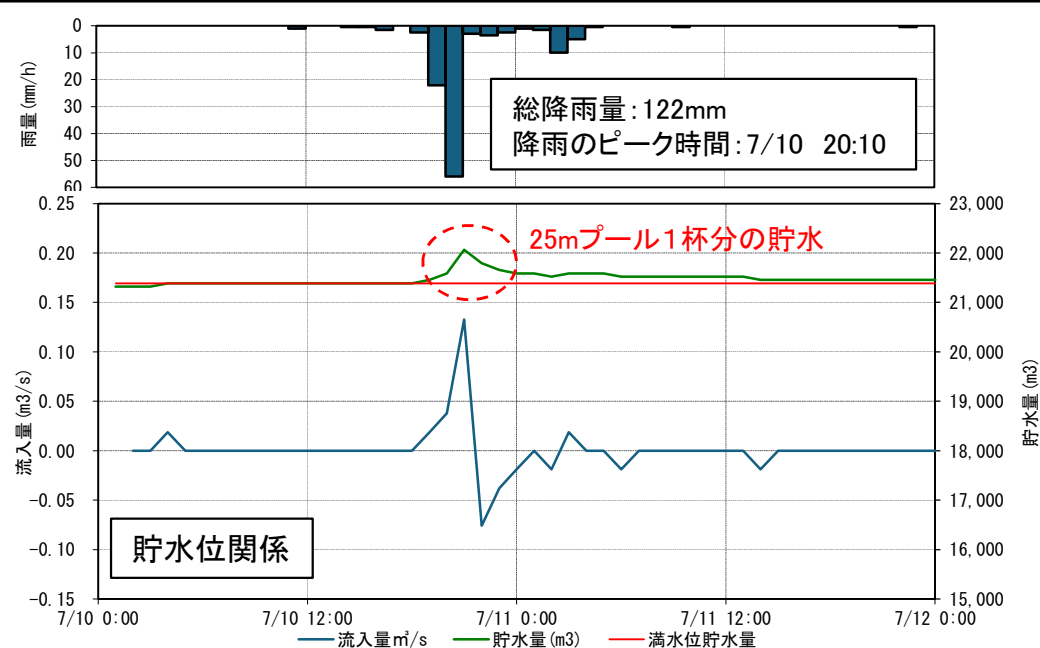
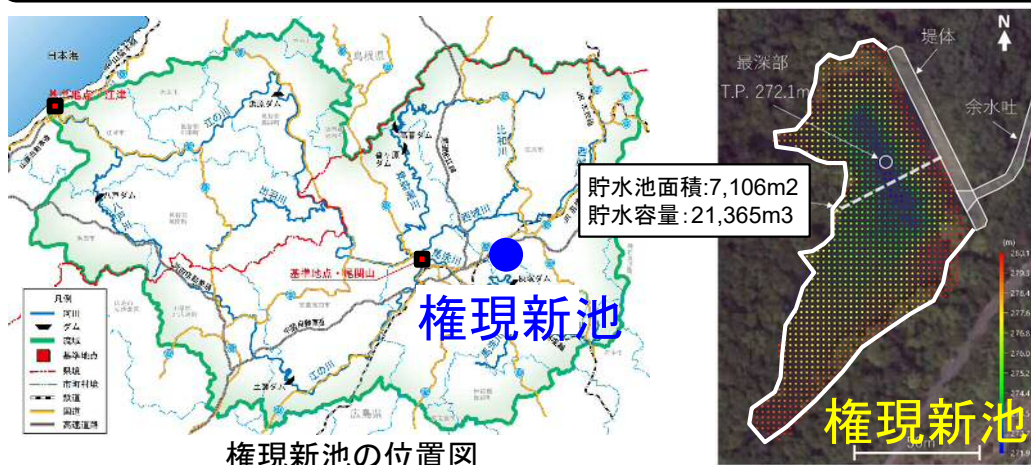


マスプロダクツ型排水ポンプの概要



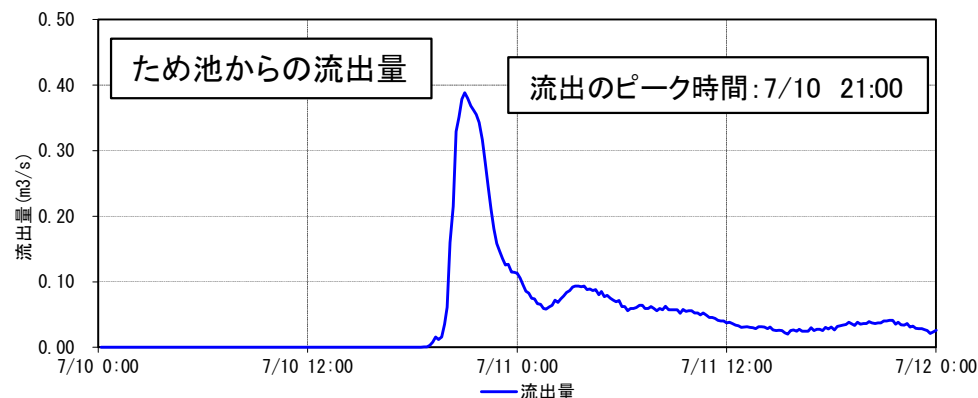
令和6年11月1～2日の実証実験時の様子

- 備北丘陵公園内にある権現新池（農業用のため池）を対象として、流域治水の推進に向けたモニタリング調査を実施した。モニタリング調査期間は、令和5年5月から令和7年4月までの2年間実施した。
- モニタリング調査の内容は、ため池の貯水位、雨量、余水吐下流水路の水位を常時観測することで、ため池の貯水効果を確認した。なお、モニタリング調査に先立ち、ため池の深淺測量を行い、ため池の水位～貯水量関係（H-V関係）を設定した。
- モニタリング調査の結果、令和6年7月10日～11日の降雨（総降雨量112mm）では、ため池が満水位であったにもかかわらず、681m³（標準的な25mプール 約1杯分）の貯水効果が確認できた。また、余水吐からの流出ピークは降雨ピークから50分遅れていることが確認できた。



令和6年度の降雨事例

事例	降雨開始日	整理時間 (h)	総降雨量 (mm)	総集水量 (m³)	最大1時間降雨量 (mm)	降雨前水位 (m)	降雨後水位 (m)	水位差 (m)	増加貯水量 (m³)	流出総量 (m³)
1	5月27日	72	52.5	12,927	9.5	4.10	4.41	0.31	2,037	0
2	6月8日	72	49.0	12,065	6.0	4.08	4.36	0.28	1,829	0
3	6月17日	72	36.0	8,864	9.0	4.11	4.30	0.19	1,238	0
4	8月29日	72	75.0	18,467	18.0	2.55	3.03	0.48	2,316	0
5	9月16日	48	49.0	12,065	46.5	3.30	3.69	0.39	2,234	0
6	10月6日	72	40.5	9,972	10.5	4.15	4.42	0.27	1,783	0
7	7月10日	48	112.0	27,577	56.0	4.41	4.41	0.00	681	7,849
8	10月19日	15	46.5	11,450	31.0	4.41	4.41	0.00	203	2,490



令和6年7月10日降雨における貯水位の変化及びため池からの流出量

- 従来の浮子による流量観測から画像解析による高度流量観測手法へと移行するため、江の川上流の7観測所(南畑敷、三次、尾関山、吉田、大津、神野瀬川、栗屋観測所)に流量観測用カメラを設置した。
- 取得した映像データを用いて流量解析を行い、浮子流量観測との比較検証を実施した。
- 本省が主催する次世代流量観測検討会に観測結果の提出を行い、これまでに計4観測所(尾関山、栗屋、吉田、南畑敷)が非接触観測手法への移行が可能と判断されている。

＜流量観測カメラ設置箇所＞



＜流量観測カメラ設置一覧＞

No.	地点 (水位観測所)	河川名	距離
1	尾関山水位観測所	江の川	139.00km (河口から)
2	栗屋水位観測所	江の川	1.80km (合流点から)
3	神野瀬川水位観測所	神野瀬川	3.30km (合流点から)
4	大津水位観測所	江の川	86.50km (河口から)
5	吉田 (毘沙門) 水位観測所	江の川	167.0km (河口から)
6	三次水位観測所	西城川	1.00km (合流点から)
7	南畑敷水位観測所	馬洗川	5.00km (合流点から)

■ 画像解析による流量観測実施例(尾関山地点)

＜位置図＞



＜画像解析の検査線の設定状況＞



＜流量観測機器の設置状況＞



＜流量ハイドロ (例)＞



画像解析による流量観測は
水位上昇～ピーク～減衰を
確実に捉えることができる

※2024年11月2日の出水
データの解析結果を整理

- 河川監視の強化、河川水位の把握等を目的とした危機管理型水位計と簡易型河川監視カメラの設置を実施している。
- 河川水位やカメラ画像は、「川の防災情報 <https://www.river.go.jp/index> 」にて閲覧可能である。
- 令和8年度から順次、機能向上したものに更新を行う。

危機管理型水位計

- 洪水時に円滑な避難行動や水防活動を支援するため、危機管理型水位計を設置。
- 危機管理型水位計は、河川堤防天端（堤防の最上面）からの水位を測定するもので、河川の水位が上昇し、観測水位に到達すると10分間隔で水位を観測する。
- 令和6年度までに80箇所設置済み。

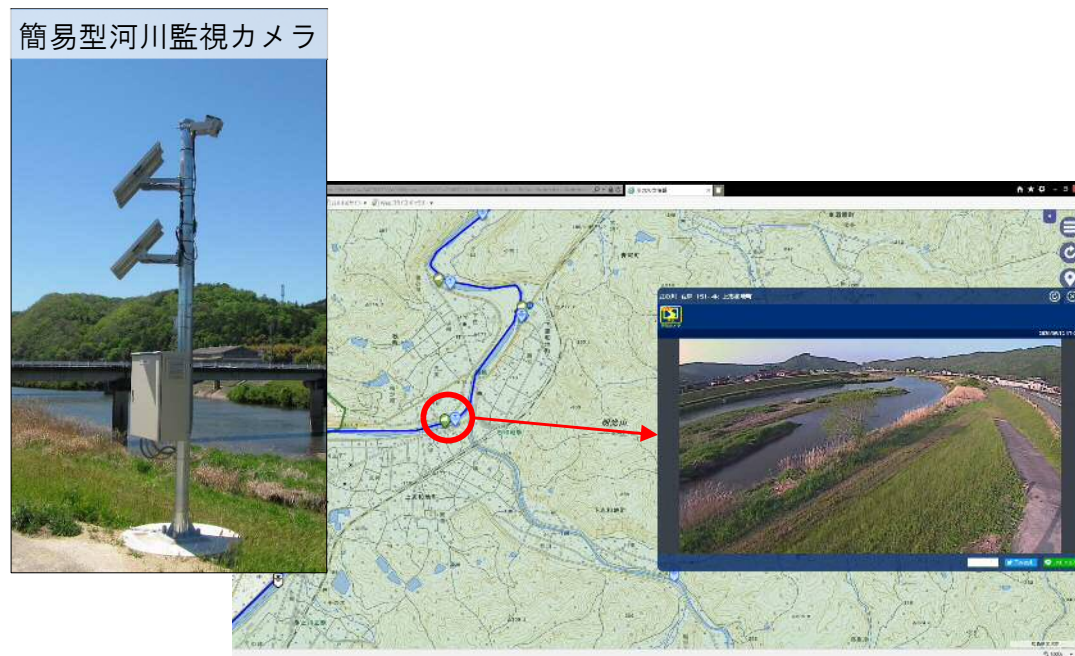
危機管理型水位計



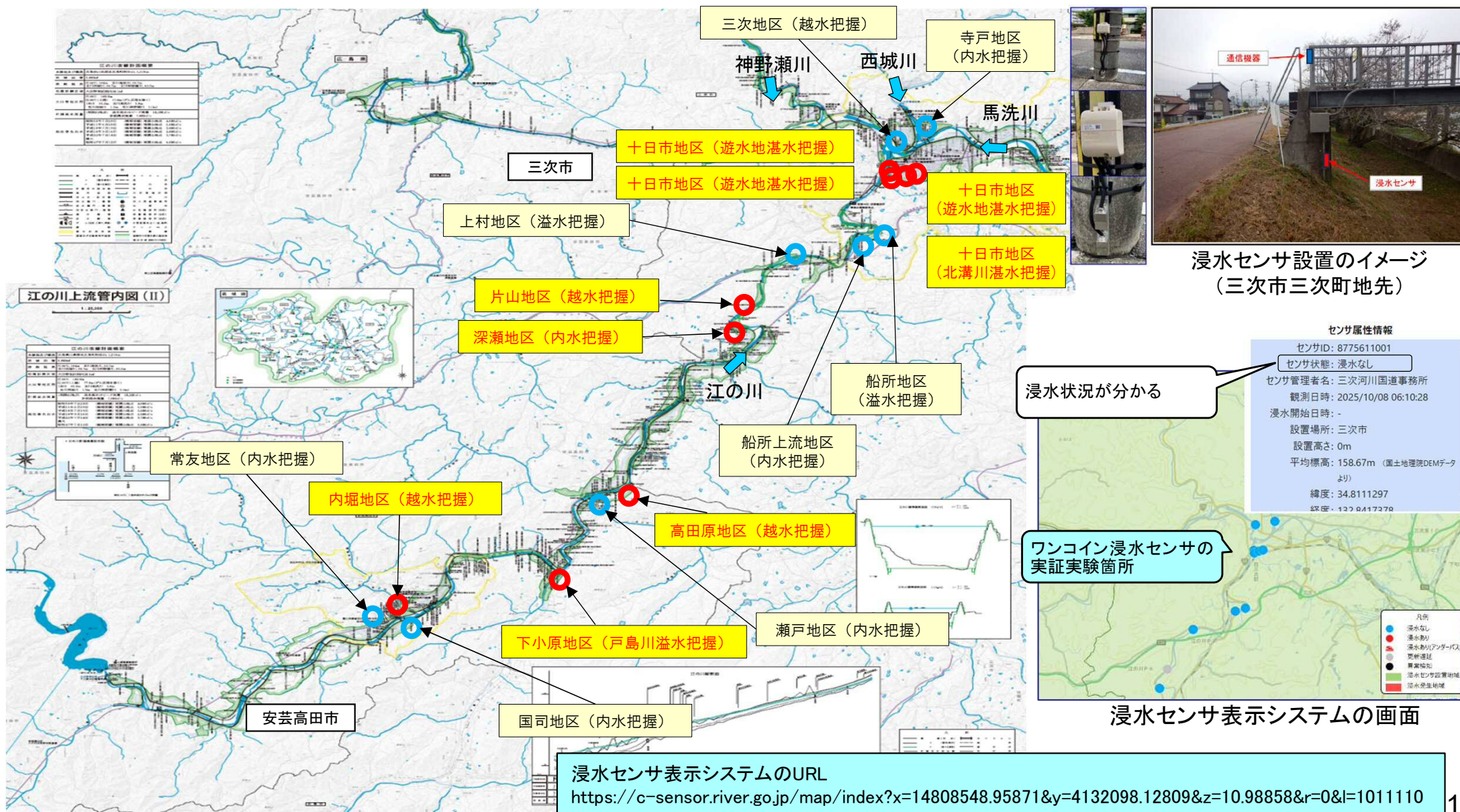
簡易型河川監視カメラ

- 近年豪雨災害では、洪水の危険性が十分に伝わらず、的確な避難行動につなげていないことが課題となっている。
- 簡易型監視カメラの整備により、多くの地点で河川の状況を確認することで、従来の水位情報だけでは伝わりにくい「切迫感」を共有し、今後も継続的に情報提供することで円滑な避難を促進する。
- 令和6年度までに46箇所設置済み。

簡易型河川監視カメラ



- 堤防からの越水や、周辺地域における浸水の状況を速やかに把握し、迅速な避難や災害対応に活かすことは重要である。
- 民間企業・地方自治体等と連携して、ワンコイン浸水センサを設置・情報発信を行う実証実験中。(現在17箇所を設置)
- 赤丸(●)は、令和7年度に増設。更に今後5箇所追加予定である(場所は検討中)。



- 防災意識の向上を促し、流域全体で避難体制の強化を図ることを目的に、地域住民の方々を対象にしたマイ・タイムライン作成会や流域治水の出前講座を実施した。
- 作成会では、マイ・タイムラインの作成方法のほか、洪水時の情報収集の方法や避難判断基準の説明を行った。

マイ・タイムライン作成会（神杉地区自主防災会）

マイ・タイムライン説明会（自主防災組織への紹介）

出前講座（神杉小学校）



令和6年7月25日



令和6年11月14日



令和7年9月18日

三次市立神杉小学校で土師ダムの役割と流域治水について出前講座を実施

出前講座in神杉小学校 2025年9月18日

流域治水の模型による説明



流域治水



わかりやすい!

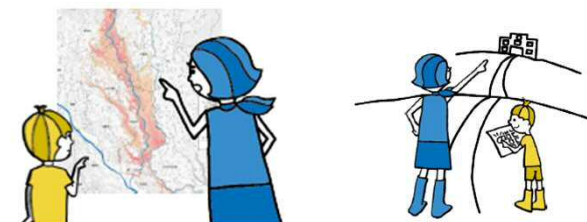
マイ・タイムラインの作成



家の浸水深は?

○座学のほか、模型を使用して、大雨が降った際に、流域治水対策を行うかどうかで、どのくらい川の水位が変化するのか実験を行った。

○最後はマイ・タイムラインを作成し、大雨時の避難行動を確認した。



住民の皆さんの災害に関する意識向上を目指します。

○座学では、モニターを使用し、写真を用いるなどして流域治水について、理解を深めてもらった。

- 流域内住民等の参画を促し、流域治水の取組のさらなる推進および加速化を図るため、広報ツールを作成し、地元イベント等でこれらを活用した。また、広報誌を作成し、公共施設や商業施設等への配布、掲示を行った。

模型



流域治水模型



令和6年11月24日 防災フェア



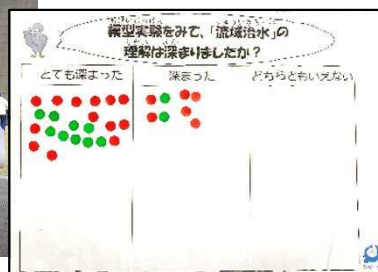
令和7年2月21日 出前講座(甲奴中学校)



令和7年2月25日
出前講座(八次小学校)



令和7年10月25日 土師ダム見学会



アンケート実施結果

ブラインドサイネージ・横断幕



〇ブラインドサイネージ
(ブラインドをスクリーン
として利用し、プロジェクターで
映像を投影する
デジタルサイネージの一種)



〇「やらにゃあいけん
流域治水」横断幕

広報用資料



住民向け資料(ポスター、チラシ)



自治体向けパンフレット

- 流域治水に関する“認知・興味”の段階から“理解⇒検討・行動⇒継続行動”の行動変容に働きかけるコンテンツを集約した『流域治水の自分事化サイト』を構築した。

自分事化サイト

主に流域の住民が、ポスターやチラシにより「流域治水」を知り、その後より詳しく流域治水を調べる際に確認するサイトとして構築した。

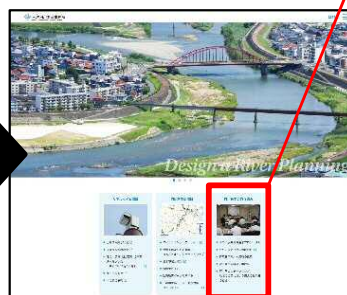
サイトには、**住民がすぐにでも取りかかれる取組の解説**（「溜める」「防ぐ」「逃げる」）や、**水害リスクを簡単に確認できるツール**（「逃げる」）、**流域治水の各種取組へのリンク**（「参加する」）を掲載し、地域における流域治水の自分事化を促進する。

(1) アクセス方法

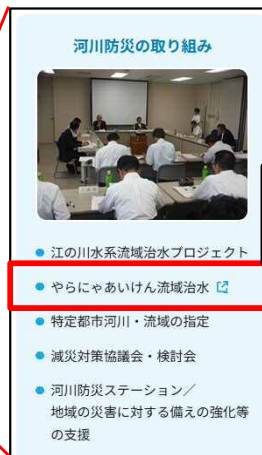
- 三次河川国道事務所ホームページの『川づくり』>『河川防災の取り組み』>『やらにゃあ いけん流域治水』から本サイトへアクセスできる。



三次河川国道事務所HP トップ画面



川づくりメニュー画面



クリック箇所拡大画面



自分事化サイト トップ画面

(2) サイトURL

- <https://www.cgr.mlit.go.jp/miyoshi/river/ryuuiiki-chisui/index.html>

(3) コンテンツ・掲載データ

① 認知



流域治水とは

流域治水の概要を紹介。

② 理解



住民ひとりひとりが取り組むことができる取組を4つの観点で解説。

“溜める”の対策効果が分かる模型実験動画も掲載



③ 検討・行動



水害リスク診断結果より、とるべき避難行動を指南。

④ 継続達成



流域治水3本柱の取組事例と合わせて、7項目10指標の取組達成状況をグラフで紹介。

- Web上の地図で診断したい地点を設定し、建物構造と住居階数を選択することで、想定される浸水状況と水害リスクを診断できる『**水害リスク診断ツール**』を構築した。

水害リスク診断

一般公開されている江の川流域のハザード情報を集約し、**住民ひとりひとりの知りたいハザードを選択してリスクを診断できるツール**を構築した。

(1) アクセス方法

- 『やらにゃあ いけん 流域治水』サイトから
“**逃げる**”
をクリックします。



(2) サイトURL

自分事化サイト トップ画面

- <https://www.cgr.mlit.go.jp/miyoshi/river/jibungotoka/>

トップ画面

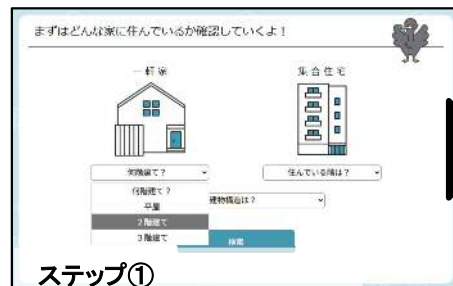
(3) コンテンツ・掲載データ

- 三次市、安芸高田市及び県と国で作成されている情報から施設情報をもとにした。

施設情報	三次市	基幹避難所 補助避難所 広域避難場所	出典: 三次市地域防災計画
	安芸高田市	指定緊急避難場所	出典: 安芸高田市地域防災計画

ハザード情報	水害	想定最大浸水深	出典: 洪水浸水想定区域図
		浸水継続時間	
		家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)	出典: 家屋倒壊等氾濫想定区域図
	土砂災害	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)	
		土砂災害警戒区域	出典: 警戒区域図
		特別警戒区域	

(4) 操作イメージ



ステップ①
建物構造と住居階数を選択



ステップ②
家の場所(地域)を選択



ステップ③
地点を選択し「確認する」をクリック



ステップ④
行動を確認し、マイ・タイムライン作成へ

マイ・タイムライン作成へ

水害リスクを表示
して行動を確認

水害リスク

想定される最大の浸水する深さ
5.0~10.0m未満の区域

一定の浸水する深さを下回るまでの時間(0.5m以上)
24時間~72時間(3日)未満の区域

自宅が倒壊するおそれのある区域
区域外

避難方法

考えられる避難方法 >> 避難行動判定フロー >> もっと詳しく

立ち退き避難

自宅から移動して、避難所など、安全な場所に避難しましょう。

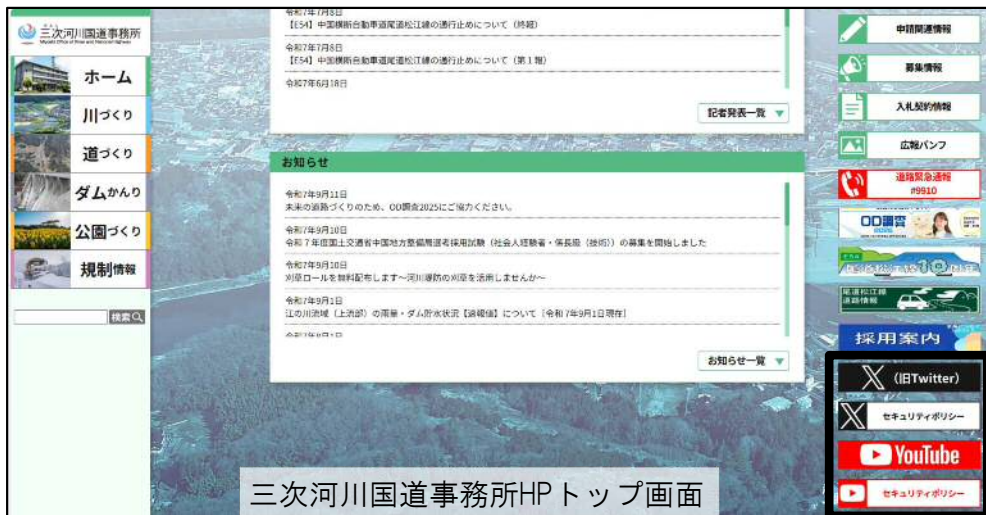
避難場所について

※1 平常時から道路距離や移動時間を踏まえ、避難先を考えておくようにしましょう。

※2 避難場所は定期的に見直され、更新されることがあります。最新情報については、自治体が公表するハザードマップやホームページをご確認ください。

- 現在、国土交通省 三次河川国道事務所では、ホームページの他、SNSでは、X(エックス)(旧Twitter(ツイッター))とYouTube(ユーチューブ)を主な広報ツールとして採用し、『流域治水』について積極的な情報発信を行っている。三次河川国道事務所のホームページのトップにある右下のバナーから、簡単にアクセスすることが可能。

- 三次河川国道事務所 <https://www.cgr.mlit.go.jp/miyoshi/index.html>
- X(旧Twitter) https://x.com/miyoshi_mlit
- YouTube https://www.youtube.com/channel/UC4GkMkwc9mzHXu8iUwYeR_Q



三次河川国道事務所HPトップ画面



X(旧Twitter) トップ画面



YouTube トップ画面



X(旧Twitter)の広報
Xでは、リアルタイムな道路情報を中心に様々な情報を発信している。、『流域治水』に関連する内容についても、#(ハッシュタグ)をつけて情報発信を行っている。



出前講座の様子
2025年10月1日

YouTubeの広報
YouTubeでは、視覚的にわかりやすい動画を公開し、幅広い年齢層に、防災の重要性について理解してもらうため、積極的な情報発信を行っている。



江の川の洪水時の様子(後編)
2022年6月24日

- 国土交通省では、水生生物による水質判定の実施を目的に昭和59年から、小中学生を主に対象とした水生生物調査を実施している。
- 令和7年度においては管内の小中学校を対象に計7回実施した。



開催日 令和7年7月7日
団体名 十日市小学校
人数 25人
場所 江の川(祝橋)

● 階級I(きれいな水)
● 階級II(ややきれいな水)
● 階級III(きたない水)
● 階級IV(とてもきたない水)



きれいな水 (階級I)		ややきれいな水 (階級II)	
ナミウズムシ	サワガニ	カワニナ類	コオニヤンマ
ヒラタカゲロウ類	カワゲラ類	コガタシマトビケラ類	オオシマトビケラ
ヘビトンボ	ナガレトビケラ類	ヒラタドロムシ類	ゲンジボタル
ヤマトビケラ類	ブユ類	○ヤマトシジミ	○イシマキガイ
アミカ類	ヨコエビ類		
きたない水 (階級III)		とてもきたない水 (階級IV)	
タニシ類	シマイシビル	サカマキガイ	エラミミズ
ミズムシ	ミズカマキリ	アメリカザリガニ	ユスリカ類
○ニホンドロソコエビ	○イソコブムシ類	チョウバエ類	



地点名	昨年と同地点	昨年の地点名	調査月日	指標生物の出現状況 (見つけた指標生物の欄に○印、うち数の多い種類に●印をつける。)																											
				I										II								III							IV		
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
						ナガレトビガラ類	カワナガサ類																								
						フコシキ	アマカサシ																								
						ヘビトシキ																									
						ヒラタカゲロウ類																									
						ヤマトビガラ類																									

- 《かわまちづくり》は、地域が持つ「資源」や地域の「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に市や民間事業者、地域住民等と河川管理者が連携し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取組み。
- 三次市街地周辺の江の川三川合流部では、平成22年より実施している「三次市三川合流部かわまちづくり」が令和6年に完了し、引き続き「巴峡三次かわまちづくり」を令和6年8月に新規登録。豊かな水辺環境や歴史的な街並みを活かした観光拠点づくりを目指し、デイキャンプやBBQサイトのほか、親水護岸や出店ブースの整備などを三次市と国が連携して行い、水辺空間の魅力を高めます。
- 令和7年には三次市の社会実験として、6月に西城川堤防で「かわまちカフェ」、10月には十日市親水公園で「デイキャンプ」と「巴峡三次かわまちづくり着工式」を開催しました。

R7.6.13～15 社会実験かわまちカフェ
(西城川右岸堤防)



R7.10.11 巴峡三次かわまちづくり着工式



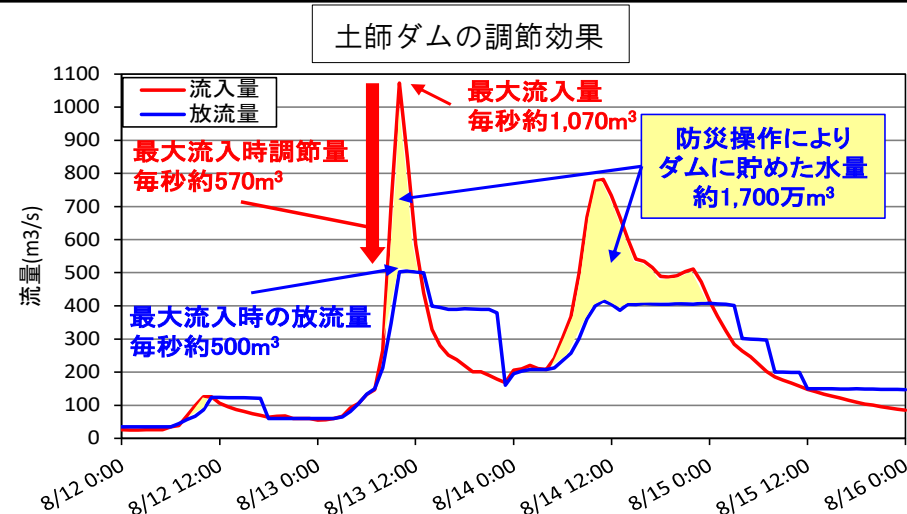
R7.10.11～12 社会実験かわまちデイキャンプ
(馬洗川 十日市親水公園)



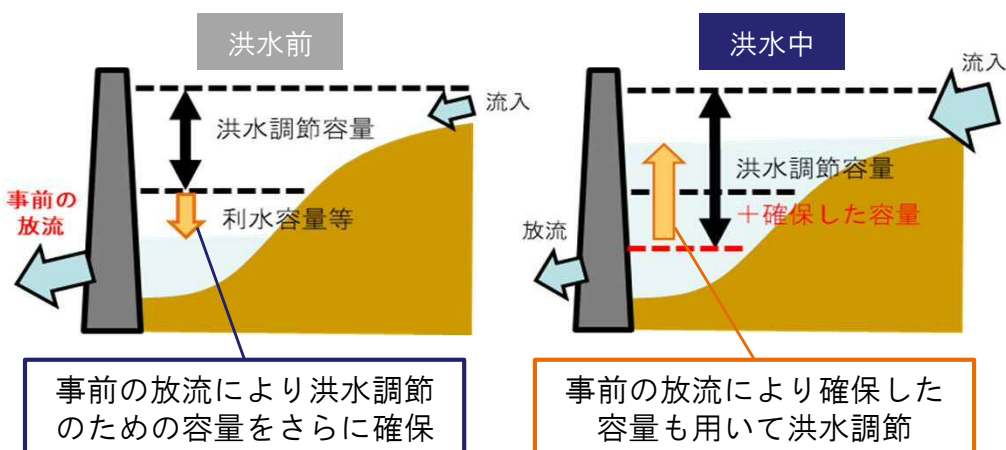
巴峡三次かわまちづくり計画 位置図



- 土師ダムは、実施内容の検討や利害者との協議を得て、令和元年6月に事前放流実施要領を策定（令和6年度改定）・運用を開始した。なお、土師ダムでは令和2年度と令和3年度に各々1回ずつ事前放流を実施した。
- 令和3年8月13日洪水時では、ダムの空容量を確保する事前放流を実施し、約36万 m^3 の空容量を確保した。その結果、下流河川へのダム放流量を最小限にし、安芸高田市吉田町付近の江の川の水位を約1.1m低下させ、計画高水位超過を回避し越水を防いだと推測される。

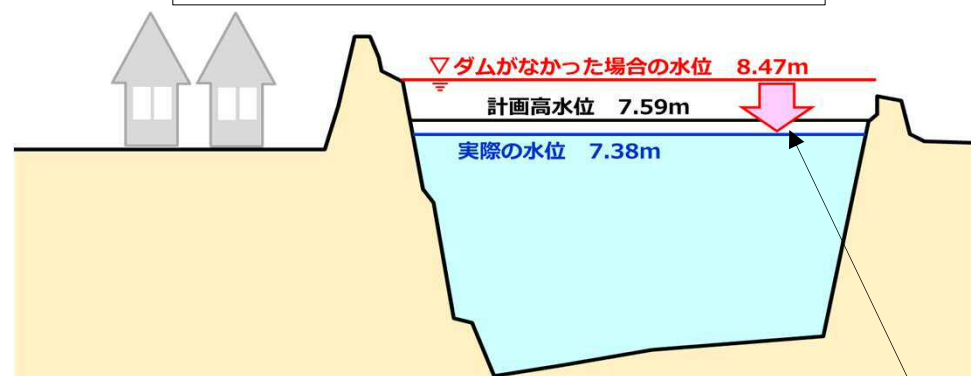


事前放流とは（効果）



- 計画規模を上回る洪水が想定された場合、事前の放流により洪水調節のための容量をさらに確保し、洪水調節容量を使い切ることを回避。（異常洪水時防災操作移行への回避or遅延）

土師ダムの防災操作の効果（吉田地点付近）



土師ダムの貯留により、吉田地点で約1.1m水位を低減させ、計画高水位超過を回避し、越水を防いだと推測される。

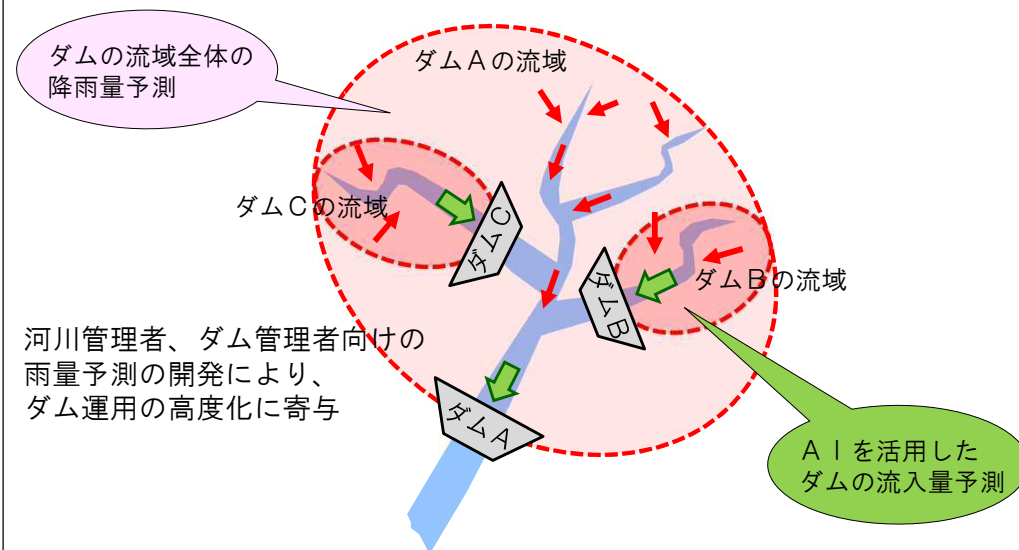
- 土師ダムは、より効率的なダムの防災操作や事前放流等を行うことを目的に、令和7年度よりAI技術・最新の降雨予測を活用したダムの流入量予測システムを構築・実装した。
- 引き続き、低水・融雪出水についてもAIを活用した予測システムを開発中。

実施内容

- 流入量予測
- 事前放流支援（シミュレーション）
- 特別防災操作支援（シミュレーション）
- 緊急放流操作支援（シミュレーション）
- メール通知
- 防災操作様式データ出力

A I を活用したダムの流入量予測の活用

- 気象庁と連携し雨量予測の精度向上の取組と併せて、ダムの操作に必要なダムへの流入量を雨量予測結果からA Iを活用して予測する取組を実施。
- 雨量・流入量予測の精度を向上することで、ダムの治水のための容量と利水（発電。農業用水等）のための容量をより柔軟に運用することが可能となり、**事前放流の更なる強化や水力発電増電を推進**する。



- 受け手の多様性に配慮した情報発信の取り組みとして、目の不自由な方に向けた点字資料を2種類作成した。
 - パンフレット:土師ダムの役割や設備、魅力等に関する説明資料
 - チラシ:土師ダムの防災操作に関する説明資料

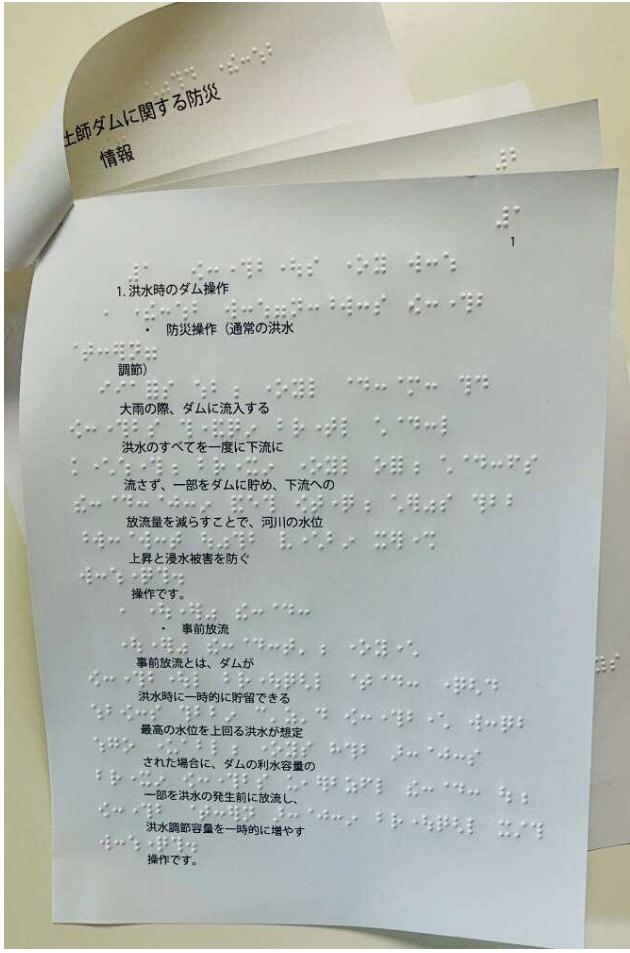
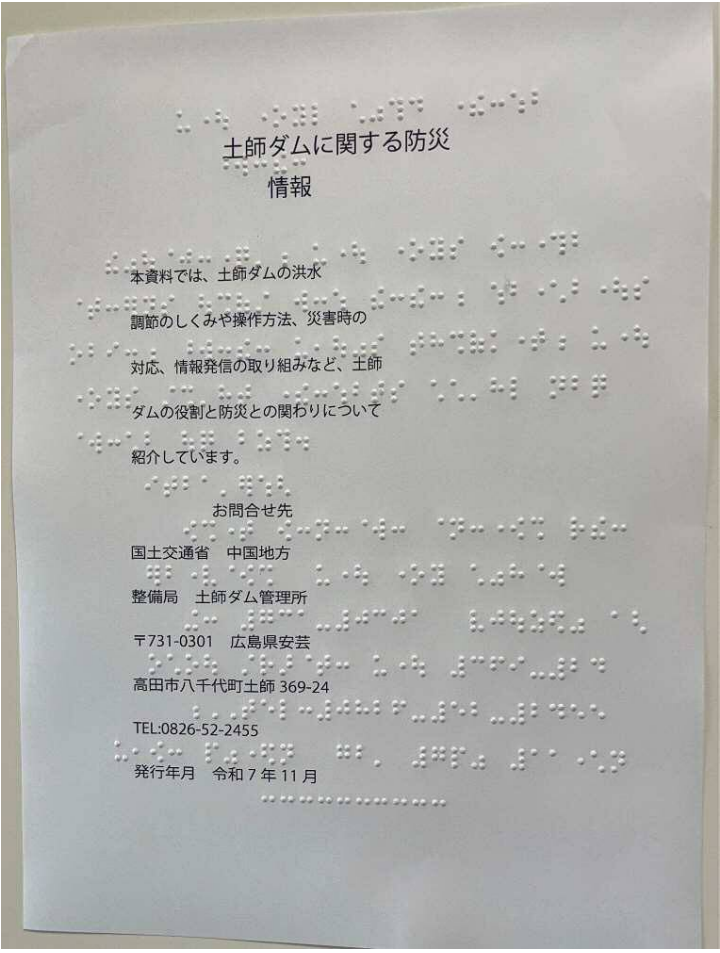
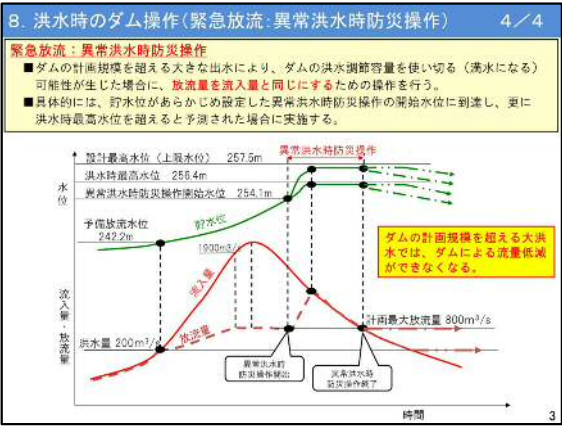
既存資料

情報を抜粋し点字化

見学者用パンフレット



防災操作説明資料



- 江の川水系の上流域にある国有林については、森林計画等に基づき、計画かつ適切な森林整備を行うことで、森林の持つ様々な機能の維持・向上を図る。具体的には、浸透・保水能力の高い森林土壌の維持、根系や下床植生の発達を促すための適切な間伐、人工林における複層林化や針広混交林化への誘導のための森林施業を計画的に行う。
- また、山崩れや溪流荒廃が発生し、森林の持つ機能が著しく低下した場合には、治山事業により早期の緑化を図ることで、本来森林の持つ機能を発揮させていく。

■ 森林整備事業(造林事業)



森林整備<間伐前>



森林整備<間伐後>



下床植生が発達した森林



針広混交林

■ 治山事業



施工前



施工後(谷止工)



施工前



施工後(山腹工)

- 地域の防災力の強化を目的として、広島県内で出前講座などを実施し地域住民の方々、自治体等の行政機関を中心に防災の知識についての普及啓発を行っている。

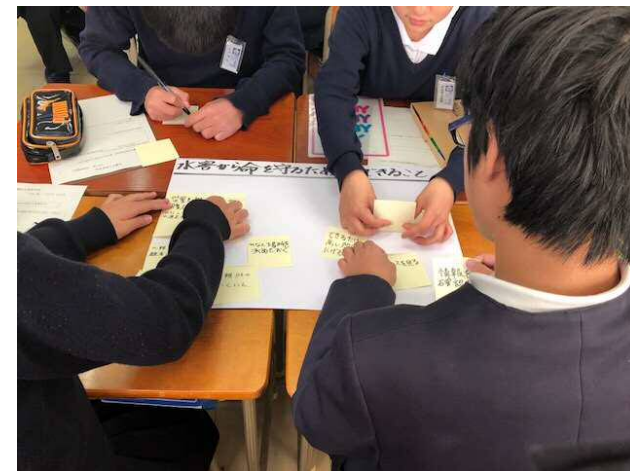
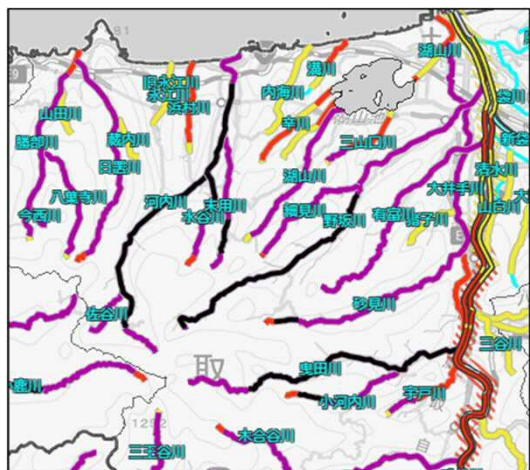
【効果】

・各災害の概要や過去の被害の様子、そしてどのようにすれば被害を最小限に食い止めるための防災気象情報の活用方法などを、キキクルなどの気象庁ホームページ等を用いて説明、解説をしている。これにより、地域住民の防災意識向上、そして地域の防災力強化等に寄与する。

【実施内容】

(過去の実績例)

- ・広島市立深川小学校での講演
- ・広島市立可部南小学校での講演
- ・北広島町立大朝中学校でのワークショップ開催
- ・広島県危機管理課研修会内での講演



- 内水対策強化として、排水ポンプを各地区へ配置している。

■内水対策強化（江津市、川本町、美郷町、邑南町）

【江津市】

- 令和2年度 小型排水ポンプ1台（高浜地区）
- 令和3年度 大型排水ポンプ1台（市村地区）
- 令和4年度 大型排水ポンプ3台（渡津・川越・渡地区）
- 令和4年度 小型排水ポンプ2台（八神地区）
- 令和5年度 小型排水ポンプ4台（江の川流域で流動的の流用）
- 令和7年度 遠隔始動常設排水ポンプ6台（渡津地区）



【川本町】

- 令和3年度 可搬式排水ポンプ1台（上尾原地区）
- 令和4年度 可搬式排水ポンプ3台（上尾原・因原地区）
- 令和7年度 常設排水ポンプ4台（因原地区）

【美郷町】※令和3・4年度貸与品含む

- 令和1年度 大型排水ポンプ5台（栗原・浜原・都賀本郷地区）
- 令和2年度 大型排水ポンプ5台（栗原・築瀬・浜原・都賀本郷・久保地区）
- 令和3年度 小型排水ポンプ6台（栗原・築瀬・浜原・都賀本郷・久保地区）
- 令和4年度 水中排水ポンプ3台（築瀬・都賀本郷地区）

【邑南町】

- 令和4年度 可搬式排水ポンプ4台（西之原地区）

■「因原」地区における内水対策

- この地区は内水被害の常襲地帯。
- 令和2年7月、令和3年8月と立て続けに被災。
- 被害を軽減するため、内水解析・対策工法の検討を実施（令和4年度）。
- 国土交通省において、『江の川中下流域における内水対策検討部会』設立（令和5年度）。
- 検討の結果、内水排出に必要なポンプの能力を算出し、整備に着手（令和6年度）。
- 検討部会にて策定した内水対策案を公表（令和7年度）。
- 令和7年5月、整備完了。* ポンプ吐出量 $7.5\text{m}^3/\text{min} \times 4\text{台} = 30\text{m}^3/\text{min}$



令和2年7月豪雨（因原地区_内水氾濫）



新たに整備した内水排除ポンプ

- 「災害対策基本法」に基づく「地区防災計画」の策定、防災訓練の実施等による地域防災力の向上。

■地区防災計画の策定

桜江町の全5地区において、地域の特性や予想される災害などについて話し合う作業部会を実施。その後各地区の地区防災計画を策定（令和5年度）

■桜江地区防災情報伝達訓練の実施

令和5年度に策定した地区防災計画を基に、桜江地区全体での防災情報伝達訓練を実施。（令和6年度）



桜江地区防災情報伝達訓練(R6.12.1)

■防災士、防災リーダーの養成

防災士養成研修や防災リーダー研修を受講してもらい、令和2～6年度の5年間で、防災士15名、防災リーダー11名、合計26名を養成。

■各種防災講座・防災研修の実施

- ・島根県地区防災計画の作成に関する実務研修の受講
- ・地区防災計画に基づいた各地区での防災訓練の実施
- ・マイタイムライン研修の実施



マイタイムライン研修(R6.12.15)

- 「都市再生特別措置法」に基づき、「立地適正化計画」を策定した。
- 官民が一体となって、居住機能や医療・福祉・商業など様々な生活機能と地域公共交通網をネットワーク化し、次世代に繋がるコンパクトタウンを目指す。

立地適正化計画策定（川本町）

【基本目標】

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくり

【まちづくりの方針（ターゲット）】

- ① これからも行政・交流の中心地として機能するまちづくり
- ② 効率的な都市構造の構築（コンパクト化・公共交通の充実）
- ③ 将来にわたり、安心・安全に暮らせるまちづくり

○居住誘導施策

- 1 快適に暮らせる良好な居住空間の創出
- 2 公共交通の維持・充実
- 3 安心・安全なまちづくりの推進

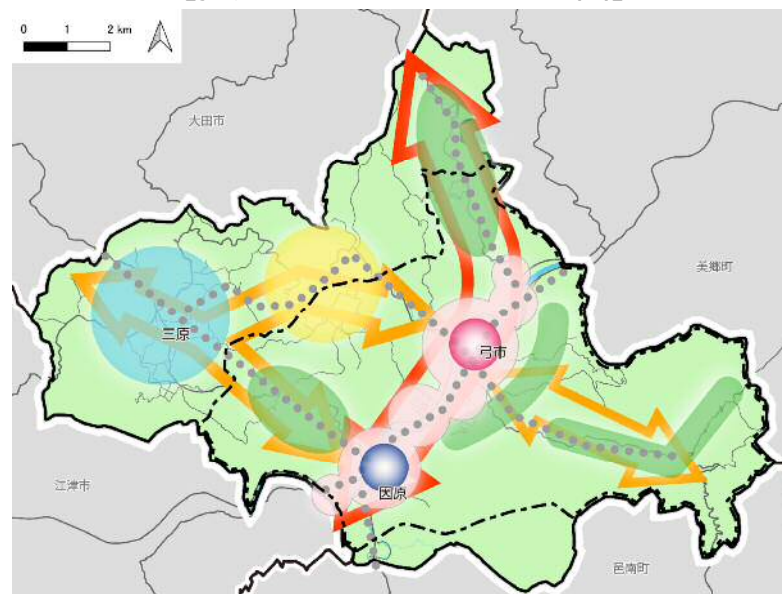
○都市機能誘導施策

- 1 中心地の活性化、機能強化に向けた都市機能の整備
- 2 公共施設の適正配置の推進

○防災指針

- ・江の川沿川の既に市街地が形成されているの地域は、洪水による浸水エリアに含まれるが、居住誘導区域等から全て除くことは現実的に困難。
- ・このため、様々な災害リスクから防災上の課題を分析した上で、防災まちづくりの将来像や目標等を明確にし、ハード・ソフトの両面から安全確保の対策を実施。

【拠点ネットワークイメージ図】



凡 例			
拠 点	● 中心拠点	江の川沿線エリア	立地適正化計画区域
	● 広域交流拠点	旧三原村エリア	
連 携 軸 等	⇄ 広域連携軸	旧三谷村エリア	都市計画区域
	⇄ 都市連携軸	県道沿い等居住エリア	
	● ● ● 公共交通ネットワーク	自然環境保全エリア	

期待される効果
20歳～45歳の人口割合

現況 19% → 目標値 22%

- 地域防災計画の策定への取り組み及び地域での避難訓練を実施。
- 町が開設する指定避難所で、マイナンバーカードを利用した避難受付を開始。

地域防災計画策定への取り組み(美郷町)

■災害に対する町内での取り組み

美郷町では古河電気工業株式会社と連携し、ワークショップや自宅での雨量観察等を通して、災害への関心を高めてもらいながら、各地域が作成する地区防災計画の策定に取り組んでおり、地域の防災力を高め、誰も取り残さない避難を目指して取り組みを進めている。(令和6年度は浜原地域・長藤地域で実施)

児童や子育て世代対象の防災学習、体験も行っており、地区防災計画の策定に取り組んだ地域では、防災訓練も計画されており、各地域で実施している。



■マイナンバーカードの活用

町が開設する指定避難所ではマイナンバーカードを利用した避難受付を行っている。用紙記入が不要で、スムーズに受付でき、受付待ち時間が短くなる。



被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策(美郷町)

■ドローンによる災害支援物資の運搬(美郷町)

- ①佐川急便との取り組み
江の川の増水による道路分断による孤立集落への物資輸送を想定した訓練の実施。

■佐川急便実証



- 自主防災組織の育成を図るための活動等を支援。

自主防災組織の活動の強化（邑南町）

■ 防災士の養成

島根県が実施する防災士養成講座を活用し、毎年防災士を養成している。講座の受講者にあたっては、町内自治会（自主防災組織）から推薦をもらい、地域の防災活動を支援している。

各自治会（自主防災組織）主体の避難訓練等に防災士が関わりながら活動をしている。

邑南町防災士 110名（R7.4.1）うち女性防災士7名

■ 邑南町防災士連絡協議会の設立

防災士のスキル向上や相互の連携強化を図り、地域住民の防災意識向上を支援することにより、地域防災力を向上させることを目的に組織している。

防災に関する知識の普及・啓発のほか、自主防災組織との連携や情報交換のため合同研修会を実施している。



- 国、県、町が連携し、まちづくりと一体となって宅地嵩上げ等の河川整備を実施することにより、浸水被害の早期解消を図る。

川本町を流れる矢谷川は、江の川下流域に位置する支川であり、矢谷川と江の川の合流地点にある谷地区では土地が低く、江の川のバックウォーター現象（※洪水時、本線の水位上昇に伴って支川の水が流入しづらい状態となり、支川で水位が上昇する現象）により、平成30年7月豪雨、令和2年7月豪雨と立て続けに浸水被害が発生した。

島根県では、令和4年3月に江の川水系下流支川域河川整備計画を変更し、江の川本川の計画高水位に対応した支川矢谷川の整備を進めている。



- 令和6年6月より供用を開始している波積ダムでは、江の川水系治水協定に基づき事前放流の運用を開始しており、洪水調整機能の強化を図っている。

◇波積ダム諸元

河川名 : 江の川水系都治川

流域面積: 13.5km²

型 式 : 重力式コンクリートダム

ダム高 : 48.2m

堤頂長 : 126.0m

計画規模: 1/50

計画雨量: 235mm/24hr (S47.7.11)

目 的 : 洪水調節、流水の正常な機能の維持



- 令和7年4月に、新たに江の川水系都治川を水位周知河川に指定し、更なる洪水時の河川情報の充実を図る。

洪水に関する注意情報をあらかじめ市町や住民にお伝えし、河川のはん濫による被害を防止・軽減するため、県では、洪水予報河川として3河川、水位周知河川として19河川を指定し、「洪水予報」、「水位到達情報」を発表している。



- 江の川流域内では、現在9地区のほ場整備事業が実施中であり、これらの地区では事業で排水路機能が強化されることにより、農地だけでなく周辺集落の湛水被害の防止に寄与している。

【井原西地区の事例】



◇地区概要

総事業費: 990,700千円

受益面積: 26.8ha

事業工期: R5～R10(予定)

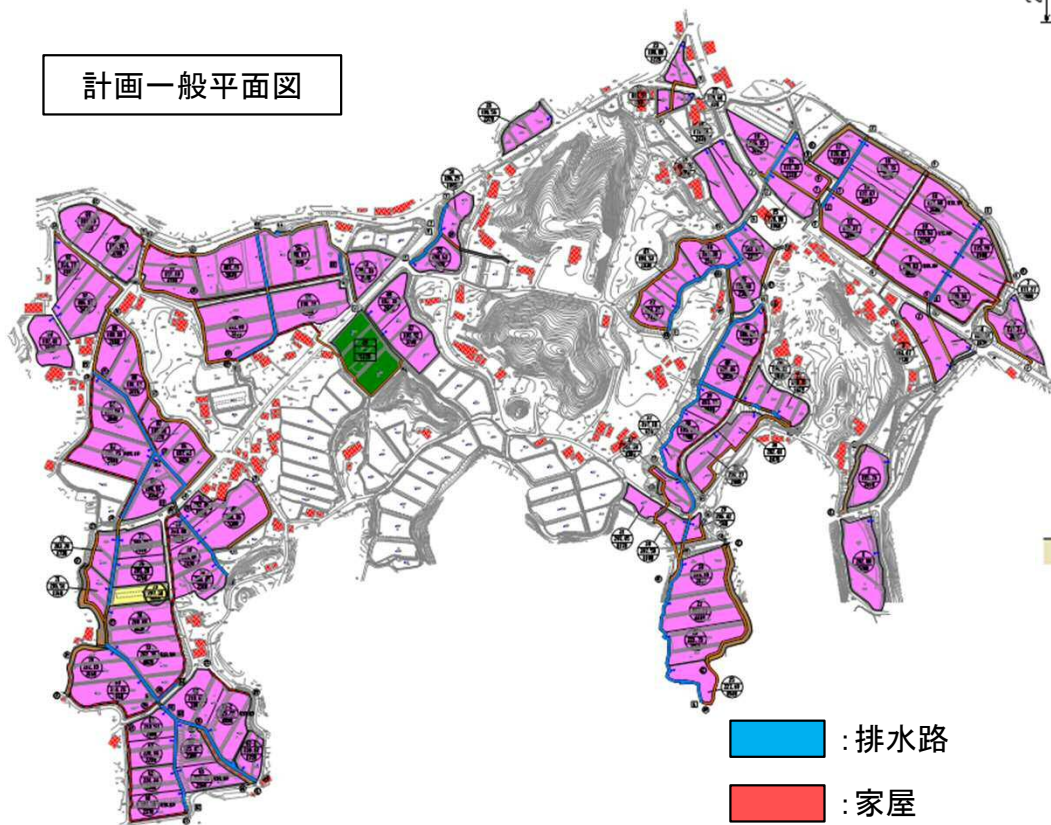
事業内容: 区画整理工 A=26.8ha

用水路工 L=5.3km

排水路工 L=3.3km

暗渠排水工 26.6ha 等

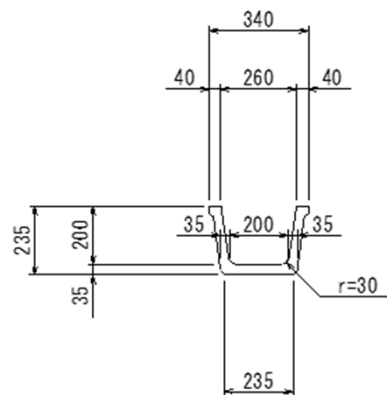
計画一般平面図



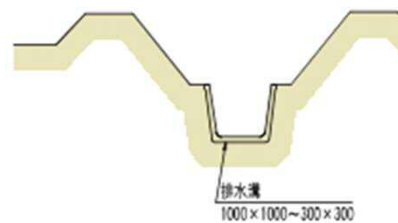
: 排水路

: 家屋

現況

水路断面拡大等による
排水機能の強化

実施後



- 健全な森林の造成や保育を行う造林事業による、樹木の生長に応じて立木密度を調整する間伐等の実施や、森林の維持造成により山地災害を防ぐ治山事業による、荒廃山地の復旧や流木対策のための治山ダム等の整備により、森林が持つ水源涵養機能を発揮させ、森林の土壌が降水を貯留し、河川への水量を平準化させ、洪水の緩和や川の流量を安定させます。

○森林整備事業
(間伐の実施)



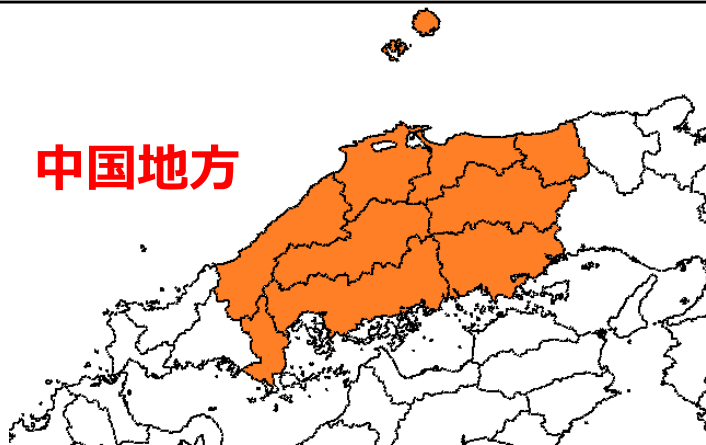
○治山事業
(治山ダム等の整備)



- 府県単位での「線状降水帯による大雨の半日前からの呼びかけ」の運用開始。

【令和6年から開始する府県単位での呼びかけ】

中国地方



※呼びかけ対象地域のイメージ

対象地域を
絞り込んで発表

地方気象情報

大雨に関する**中国地方**気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 広島地方気象台発表

<見出し>

中国地方では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生
の危険度が急激に高まる可能性があります。

<本文>

… (中略) …

島根県



※呼びかけ対象地域のイメージ

大雨に関する**中国地方**気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 広島地方気象台発表

<見出し>

島根県では、〇日夜のはじめ頃には、線状降水帯が発生して大
雨災害発生
の危険度が急激に高まる可能性があります。

<本文>

… (中略) …

府県気象情報

大雨に関する**島根県**気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 松江地方気象台発表

<見出し>

中国地方では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生
の危険度が急激に高まる可能性があります。

<本文>

… (中略) …

大雨に関する**島根県**気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 松江地方気象台発表

<見出し>

島根県では、〇日夜のはじめ頃には、線状降水帯が発生して大雨災害
発生
の危険度が急激に高まる可能性があります。

<本文>

… (中略) …

対象とならない 広島県、岡山県、鳥取県では、
府県気象情報についての呼びかけをしない。

※北海道や沖縄県では、府県予報区単位で発表します。

※鹿児島県では奄美地方を、東京都では伊豆諸島と小笠原諸島を区別して発表します。

※発表する情報の電文フォーマットは変わりません。

● 地域防災支援の取組

平時

- ・市町村等との「顔の見える関係」構築・深化
- ・災害リスクや情報利活用の研修・演習
- ・防災計画や避難情報の判断・伝達マニュアル等への助言
- ・関係機関等との連携した取組

緊急時

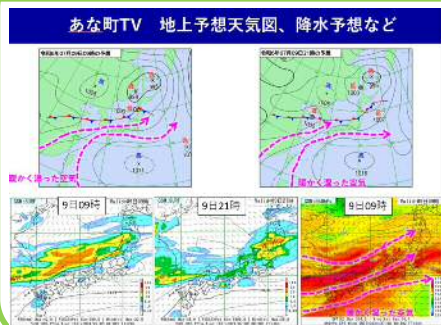
- ・記者会見による呼びかけ
- ・ホットラインによる首長への助言
- ・JETT(気象庁防災対応支援チーム)の派遣

災害後

- ・自治体等と共同で「振り返り」を実施

地域防災支援業務の強化

YouTubeを用いた気象解説



警報級の大雨・大雪等になるおそれがある場合に、防災担当者を対象にYouTubeで気象解説を行っています(あなたの町の予報官TV)。いつ、どこで、どれほどの現象となる見込みなのかをなるべく詳細に説明します。

気象防災ワークショップの推進



県内自治体防災担当職員を対象に、気象情報の利用方法などをより理解していただき、防災対応能力の向上を目的として、風水害編の気象防災ワークショップをWeb会議ツールを用いて実施しました。令和7年度も継続して実施していきます。

【Web会議でワークショップ開催】

積極的にJETTを派遣



【島根県災害対策本部会議へ派遣】

令和7年8月10日から大雨では、島根県へ職員をJETT派遣して気象解説等を行いました。令和6年能登半島地震では継続的にJETTを派遣しました。

「振り返り」の業務改善への活用

- ・災害時等の対応を振り返り、平時・緊急時の業務へフィードバック



令和7年8月10日から12日にかけての前線と低気圧による大雨について県内市町村担当者と共同で振り返りを実施し、市町村の避難状況や活動を把握するとともに気象台への提案やニーズについて意見交換を実施しました。

※あなたの町の予報官TV(あな町TV): 週末(原則、金曜日) または早期注意情報[中]以上のとき、16時ごろ。限定公開。

- 地域の防災力の強化を目的として島根県内で出前講座や気象台見学などを実施し地域住民の方々、自治体等の行政機関を中心に防災の知識についての普及啓発を行っている

- 沢谷地域連合自治会(美郷町)からの依頼を受け、2025年6月20日に出前講座を実施。
- 川本町教育委員会からの依頼を受け、2025年7月17日に気象台見学を実施。
- 2025年10月15日に中国地方治水大会での講演を実施。

**【出前講座の内容(美郷町)】**

- 防災気象情報や過去の災害事例の説明など

【見学時講座の内容(川本町)】

- 気象観測や防災気象情報についての説明など

【講演の内容】

- 気候変動と気象災害について説明。

- Web会議ツールで「報道機関との懇談会」を鳥取地方気象台及び島根・鳥取両県内の河川・国道事務所と共同開催
 - ・報道機関に、水害をはじめとする防災知識の普及・啓発・周知について連携を強化
- 島根県CATV協議会と定期的(年4回)に番組制作を実施。



【開催実績と気象台からの話題提供等】

- 第8回 令和6年7月16日「松江地方気象台が会見する目安」、
「線状降水帯について」
第9回 令和7年2月14日「地震関連情報について」、
「新たな防災気象情報の体系運用について」
第10回 令和7年6月5日「新しい防災気象情報」について、
「令和6年度の大雨と今年の夏の天候について」



【季節ごとに3か月予報を組み込み年4回制作し、ケーブルテレビ協議会各局で放送】

- 令和6年6月 3か月予報、「梅雨と線状降水帯」
令和6年9月 3か月予報、「台風」
令和6年12月 3か月予報、「大気の状態が不安定」
令和7年3月 3か月予報、「桜」
令和7年6月 3か月予報、「地上観測測器の紹介」
令和7年9月 3か月予報、「高層気象観測機器の紹介」

- 本川からの逆流による被害防止を目的とした排水樋門のゲート操作については背後地住民（樋門操作員）に委託して被害軽減に努めている。
- 昨今、特に中山間地域においては過疎化の進行等により、操作員の高齢化や担い手不足といった、地域防災安全についての課題を抱えている。
- 江の川では上記の課題に対する解決策として、観測水位に応じた機械制御による樋門ゲート操作自動化の実証実験を令和7年度出水期から開始。さらに、将来的なAIを活用した自律判断機能を搭載した操作の実現に向けて検討も開始している。

全国初

【現状と将来目標】

- 高齢化
- 担い手不足

課題

将来的な
樋門操作員の確保
地域防災安全の
持続可能性

機械制御による
ゲート操作自動化
(遠隔監視体制)

樋門操作員の
負担軽減

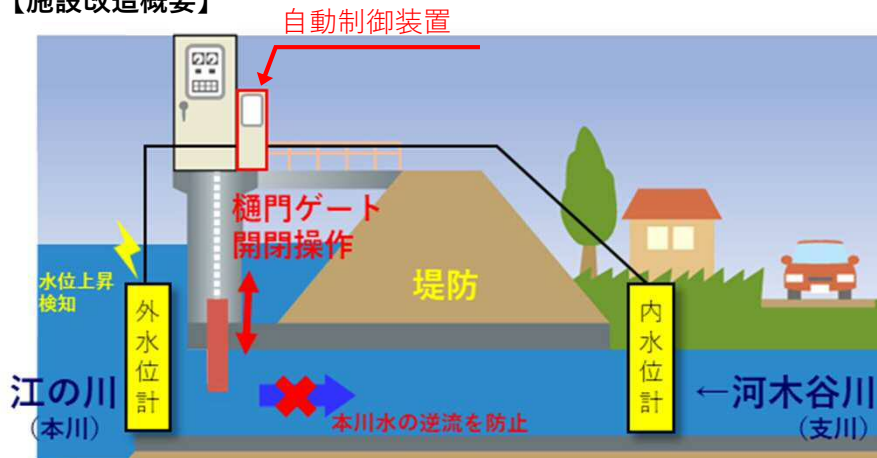
AIを活用した
ゲート操作の自動化

樋門操作の省人化
担い手不足解消
持続可能な地域防災安全

令和7年度～

Digital X-formation

【施設改造概要】



POINT

- 巻上機・操作盤等の既存の機械設備はそのままに、内外水位計の水位情報から自動で樋門操作を制御する装置（自動制御装置）を新設。
- 外水位計が操作水位以上を連続して10分間※検知すると自動で全閉操作。
- 内水位が外水位より高い状態を連続して10分間※検知すると自動で全開操作。

※操作トリガーの連続検知時間は今後の実証実験結果で見直しする可能性あり

【操作説明会】

樋門ゲート操作自動化にあたって、樋門操作員へ説明会を実施。

日時： 令和7年6月5日 17:30～
会場： 河木谷排水樋門
参加者： 樋門操作員
嘉戸美郷町長ほか町職員
美郷町 消防団幹部
島根県
浜田河川国道事務所



◆嘉戸美郷町長コメント

樋門操作員の負担が軽減され、また住民の安全向上のための第1歩だと認識している。
関係者で前を向いて進めていきたい。



こうきだに
河木谷排水樋門
おおちぐん みさとちょう おんぼら
(島根県邑智郡美郷町乙原地先)

江の川水系江の川左岸42k200付近

< 樋門諸元 >
ラック式鋼製ローラーゲート
H4.1m × B3.2m × 2門

- 従来の浮子による流量観測から画像解析による高度流量観測手法へと移行するため、江の川下流の川平・谷住郷水位観測所に流量観測用カメラを設置済。加えて、今年度12月に川本水位観測所、3月に都賀水位観測所へも設置予定。
- 現在は試験運用中であり、従来の浮子流量観測と並行して測定している。今後、浮子観測との比較検証を実施する予定。
- 本省が主催する次世代流量観測検討会に観測結果の提出を行い、非接触観測手法への移行が可能と判断されたのち、本運用を開始する。

<流量観測カメラ設置箇所>



<流量観測カメラ設置一覧>

No.	地点（水位観測所）	河川名	距離
1	川平水位観測所	江の川	9.10km（河口から）
2	谷住郷水位観測所	江の川	14.80km（河口から）
3	川本水位観測所	江の川	36.30km（河口から）
4	都賀水位観測所	江の川	74.80km（河口から）

（川平水位観測所）



遠赤外線カメラ



風向風速計

（谷住郷水位観測所）



遠赤外線カメラ



風向風速計

（録画管理システム）

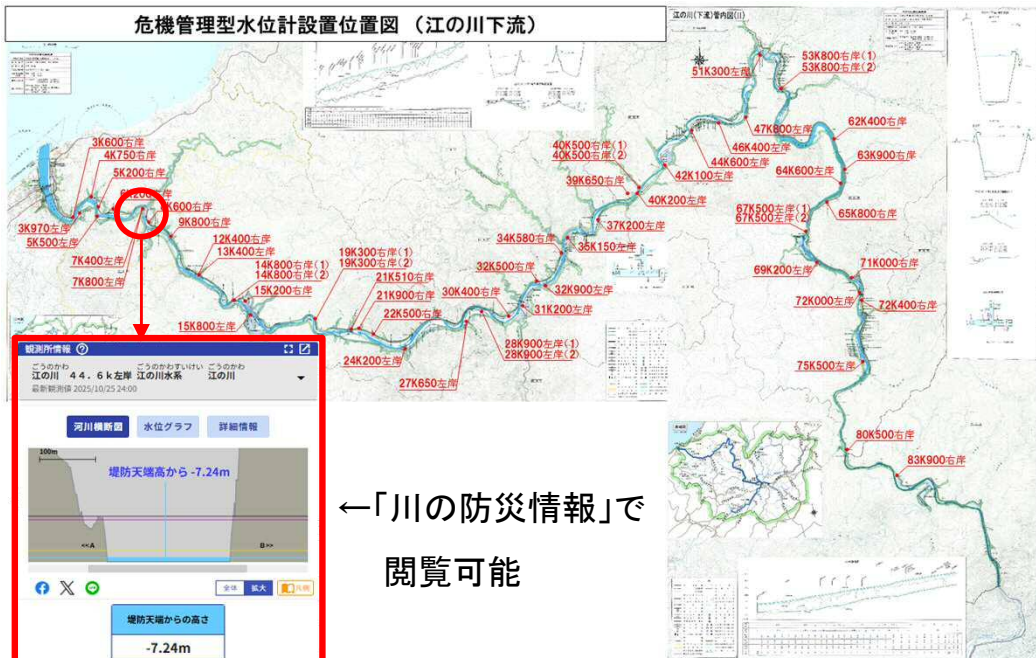


- 河川監視の強化、河川水位の把握等を目的とした危機管理型水位計と簡易型河川監視カメラの設置を実施している。
- 河川水位やカメラ画像は、「川の防災情報」 <https://www.river.go.jp/index> にて閲覧可能である。
- 令和8年度から順次、機能向上したものに更新を行う。

危機管理型水位計

- 洪水時に円滑な避難行動や水防活動を支援するため、危機管理型水位計を設置。
- 危機管理型水位計は、河川堤防天端（堤防の最上面）からの水位を測定するもので、河川の水位が上昇し、観測水位に到達すると10分間隔で水位を観測する。
- 令和6年度までに56箇所設置済み。（浜田河川国道事務所管内）

危機管理型水位計設置位置図（江の川下流）



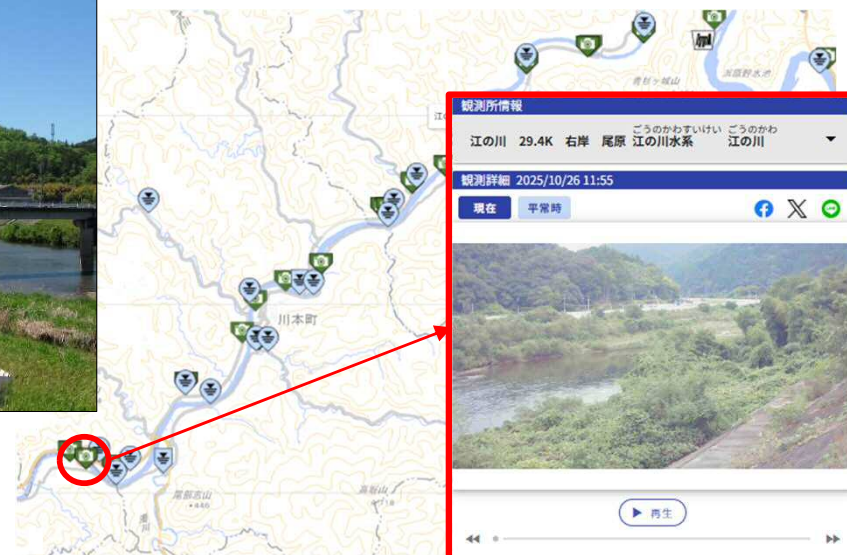
簡易型河川監視カメラ

- 近年豪雨災害では、洪水の危険性が十分に伝わらず、的確な避難行動につながないことが課題となっている。
- 簡易型監視カメラの整備により、多くの地点で河川の状況を確認することで、従来の水位情報だけでは伝わりにくい「切迫感」を共有し、今後も継続的に情報提供することで円滑な避難を促進する。
- 令和6年度までに46箇所設置済み。（浜田河川国道事務所管内）

簡易型河川監視カメラ



「川の防災情報」で閲覧可能↓



- 堤防からの越水や、周辺地域における浸水の状況を速やかに把握し、迅速な避難や災害対応に活かすことは重要である。
- 地方自治体と連携して、ワンコイン浸水センサを設置・情報発信を行う実証実験中。(現在8箇所を設置)
- 令和7年度は江津市に浸水センサを増設。



- 防災意識の向上を促し、流域全体で避難体制の強化を図ることを目的に、地域住民の方々を対象にしたマイ・タイムライン作成会や流域治水の出前講座を実施した。
- 作成会では、マイ・タイムラインの作成方法のほか、洪水時の情報収集の方法や避難判断基準の説明を行った。

防災出前講座（郷田小学校）

マイ・タイムライン説明会（江津市）

マイ・タイムライン説明会（江津市）



江の川の生き物についての講座（桜江小学校）



(株) 誠和商会へBCP（事業継続計画）の作成支援を実施

BCPワークショップ



タイムラインシート作成イメージ

○防災だけでなく、河川環境に関する出前講座も実施

住民の皆さんの災害に関する意識向上を目指します。

- 流域の関係機関がタイムライン(「いつ、誰が、何をするか」を時系列で整理した計画)を円滑に運用するため、『江の川(下流)水害タイムライン運用支援システム』を公開している。本システムには、水位や河川監視カメラなどの情報が集約されており、関係機関の行動に関連する情報を確認することが可能である。

江の川(下流)水害タイムライン運用支援システム

(1) アクセス方法

- 浜田河川国道事務所ホームページの『トップページ』>『防災情報』>『江の川(下流)・高津川水害タイムライン運用支援システム』から本サイトへアクセスできる。(下記URLから直接アクセス也可)

(2) サイトURL

- <https://www.cgr.mlit.go.jp/hamada/bousai/timeline/index.html>

(3) コンテンツ・掲載データ

機能	情報
タイムラインを見る	タイムライン詳細版、簡易版、運用方法
水位が分かる	水位(川の水位情報)
現地状況が分かる	CCTV、簡易型河川監視カメラ、いわみる 等
道路情報が分かる	中国地方整備局道路情報提供システム 等
気象情報が分かる	気象警報、早期注意情報、洪水予報、キキクル 等
台風の進路が分かる	台風経路(リンク:気象庁)
停電情報が分かる	停電情報(リンク:中国電力ネットワーク)
河川状況を動画で確認	水位観測所の状況(YouTube)



PC・スマートフォンの両方に対応
⇒現地で出水対応にあたる
水防団や、
一般の方々も活用可能

江の川・高津川 水害タイムライン運用支援システム

TOP画面 水位が分かる 現地状況が分かる 道路情報が分かる

タイムラインの確認

河川監視カメラの確認

気象情報(気象庁)

停電情報(中国電力ネットワーク(株)提供)

タイムラインを見る

国土交通省 川の防災情報 浜原ダムはこちら

水位が分かる

現地状況が分かる

道路情報が分かる

気象情報が分かる

台風の進路が分かる

停電情報が分かる

- 現在、国土交通省 浜田河川国道事務所では、ホームページの他、SNSでは、X(エックス)(旧Twitter(ツイッター))とYouTube(ユーチューブ)を主な広報ツールとして採用し、『流域治水』について積極的な情報発信を行っている。
浜田河川国道事務所のホームページのトップにある右下のバナーから、簡単にアクセスすることが可能。
- 浜田河川国道事務所 <https://www.cgr.mlit.go.jp/hamada/>
- X(旧Twitter) https://x.com/mlit_hamada
- YouTube https://www.youtube.com/@mlit_hamada



浜田河川国道事務所HPトップ画面



X(旧Twitter) トップ画面



YouTube トップ画面



X(旧Twitter)の広報
Xでは、リアルタイムな道路情報を中心に様々な情報を発信している。、『流域治水』に関連する内容についても、#(ハッシュタグ)をつけて情報発信を行っている。



写真付きでわかりやすい内容
ポンプ車による排水作業の様子
2024年11月2日

YouTubeの広報
YouTubeでは視覚的にわかりやすい動画による情報発信を行っている。一例として、伐採技術の匠と、木材利用の匠をマッチングする『TAKUMIproject』(公募伐採)の紹介を行っている。

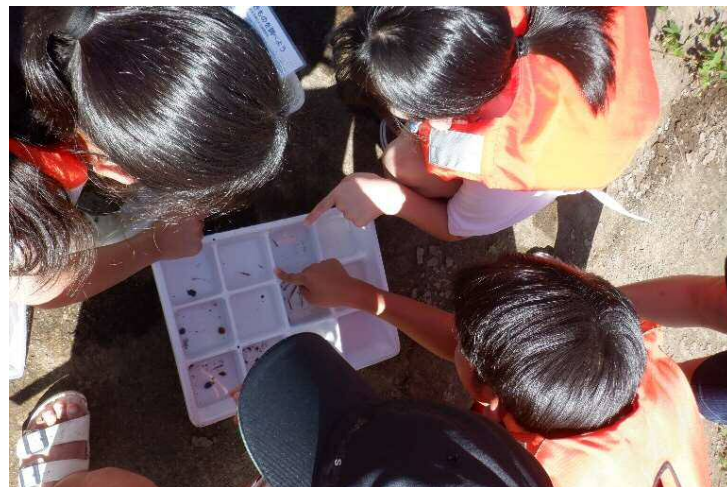


より多くの人に興味を持ってもらえるように
PVを作成

TAKUMIproject始動
2024年1月11日

- 国土交通省では、水生生物による水質判定の実施を目的に昭和59年から、小中学生を主に対象とした水生生物調査を実施している。
- 令和7年度においては浜田河川国道事務所管内の小中学校を対象に計6回実施した。

・川本町立川本中学校との調査の例



開催日 令和7年10月17日
団体名 川本町立川本中学校
人数 18人
場所 江の川(川本町三島)



きれいな水(階級Ⅰ)

- ヨコエビ類 42匹
- カワゲラ類 9匹
- ヒラタカゲロウ類 4匹

きたない水(階級Ⅲ)

- タニシ類 8匹
- ニホンドロソコエビ 1匹

とてもきたない水(階級Ⅳ)

- サカマキガイ 3匹

ややきれいな水(階級Ⅱ)

- ヒラタドロムシ類 11匹
- ヤマトシジミ 5匹
- イシマキガイ 1匹

総合判定

きれいな水(階級Ⅰ)

●は発見数が多かった生物

